

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、国際社会のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 高いレベルでの自己実現を希求し、主体的に学ぶ姿勢と高みに挑むチャレンジ精神を備えた生徒の育成を図る。</p> <p>◇ 豊かな人間性の育成と高い学力の伸長を図る。</p> <p>◇ 生徒・教職員が一体となり、社会の教育力を有効に活用しながら Sagano Dynamicsを推進する学校づくりを進める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Sagano Dynamics: the way in which things or people behave and react to each other</p> </div>	<p>① ICT機器の導入を機に校内研修を充実させることにより学校全体で実践例を共有し、授業改善を進めることができた。Google classroomの活用が進み、臨時休業中にも面談・学習指導が継続できた。今後は、BYOD導入にあたり、生徒端末の活用についての研鑽を積み、さらに授業の質を高めることが必要である。</p> <p>② アカデミックラボを組織的に運営することができた。コロナ禍においても課題探究成果発表会や報告会をウェブを活用しながら実施することができた。今後は、課題研究の成果と課題を教員間で共有し、より深化した探究活動を展開していきたい。</p> <p>③ 日々の学習指導や進路学習、個別面談等を通じて、将来像を明確化し、高い進路目標の設定につなげることができた。高大連携のさらなる発展と新しい大学入試システムについての研究を継続し進路指導に生かしていく必要がある。</p> <p>④ 制限が多い中、学校行事やHR活動については、生徒会が中心となり、生徒が主体的に考え、能動的・積極的な取組を展開することができた。人権学習を核とした生活指導を通してバランスの取れた人権感覚の涵養につなげることができた。今日的課題であるSNSの正しい活用については継続指導が必要である。</p> <p>⑤ 新型コロナウイルス感染症予防については全校体制で取り組むことができた。校内美化、環境整備については引き続き積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>⑥ 学校説明会において生徒の広報委員が主体的に関わり、学校の魅力を発信することができた。今後は、ホームページの内容をさらに充実していきたい。</p>	<p>(1) 1人1台端末を活用した個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びを推進し、ICTを含む様々な学びの方法により、生徒が自ら学ぶ意欲を喚起する授業を実践し、学ぶことの楽しさとともに基礎基本を習得させ、主体的に学ぶ生徒を育てる。</p> <p>(2) 社会との関わりの中で高い志を持って何ごとにもチャレンジし、成果からは達成感を、課題からは新たな行動を生み出すことのできる生徒を育てる。</p> <p>(3) 教職員は多面的な指導を通して、自ら高い進路目標を定め、実現に努める生徒を育てる。</p> <p>(4) 全校体制でSSHやラボ活動を実施し、探究心や独創性を育てるとともに、GLIに基づいて社会性と国際性を豊かにする実践をとおして国際的に活躍できる生徒を育てる。</p> <p>(5) 地元京都や日本の伝統や文化を理解し、それらを世界に発信できる生徒を育てる。</p> <p>(6) 日々の生活において自己管理ができ、社会の動静に関心を持ち、主体的に判断し行動できる主権者となる生徒を育てる。</p> <p>(7) 特別活動は生徒の主体的な活動の場とし、様々な場面でリーダーを育て、コミュニケーション活動を重視しながら活気ある学年及び学校集団を創る。</p> <p>(8) 学校の様々な魅力をあらゆる機会や手段を用いて広く伝え、府民から選ばれる学校作りを目指す。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
魅力ある学校づくり	1人1台端末を活用した個別最適な学びと生徒の主体的・協働的学びを推進し、新学習指導要領にのっとり、主体的に学ぶ生徒を育てる。	あらゆる教育活動の場面で、クラウドサービスやビデオ会議システム等のICTの利活用を推進する。特に、1年生では、1人1台端末（iPad）の積極的な活用をHRや進路学習等様々な場面でを行い、その活用事例を共有する。		
		思考力・判断力・表現力の向上を目的とした授業実践を教員間で共有し、課題を明確にし発展していける持続可能なシステム作りを図る。		
		情報モラル教育の充実に加えて、世界標準のデジタルシチズンシップ教育の現状の情報共有を行い、実施方法を構築する。		
	日本の伝統や文化を理解し、世界に発信できる生徒を育てる。	ラボ活動、オンラインを利用した国際交流等を通じて、日本の伝統や文化の価値を再発見し、それらを表現・発信する力を育成するとともに、世界を俯瞰する力、協働する力を育成する。		
	ユネスコスクール認定校として、SDGs など持続可能な環境や社会作りの観点から社会貢献できる若者を育成する。	環境や社会の様々な課題に目を向け、持続可能な発展を支えるのに必要な課題設定・解決能力を育成するために探究活動の充実を図ると同時に、国際教育を推進して英語力と国際性の育成を図る。		
組織とその運営	社会との関わりを重視しながら、全校体制でスーパーサイエンスハイスクール（SSH）、ラボ活動、グローバル・リーダーシップ・イニシアティブ（GLI）を円滑に実施する。	課題研究の指導法を教科を超え共有する。また、SSH2期の取組を総括して、課題を明確にして3期の取組の指針を決定し申請を行う。		
		探究活動を通して修得した学びを学年を越えて生徒同士が共有できる仕組みを作り、主体的な学びの推進を図る。		
		課題探究活動において、自己と社会との結びつきや進路選択のあり方を念頭に置き、広い視野に立った進路選択のあり方や自己と社会との結びつきをふまえたキャリア教育の充実に努める。		
		コロナ禍において、国際交流のプログラムをオンラインとオフラインのハイブリッド型の活動で行い、異文化理解及びグローバルシチズンの育成のカリキュラムデザインを模索し、構築していく。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習と進路指導	生徒は志を持ち、高い進路目標を主体的に定め、自ら努力し、教職員はその実現を図るよう創意工夫を行う。	<p>進路ガイダンスや進路関係の会議等を通して、難関大をはじめとする高い進路目標に向かって努力する生徒集団の育成をはかる。</p> <p>高大連携の取組やラボ活動、日々の学習の成果を有機的につなぎ、将来の学びへのモチベーションを高める。また、進路HRや面談等を効果的に活用し、個々の生徒がそれぞれの目標を実現できるようサポートする。</p> <p>多様な大学入試について、学校全体で共有し、各入試についての認識を高める。</p> <p>生徒が主体的に学習ができるように、適切に評価することでPDCAサイクルを実施させる。また、そのための適切な評価方法を検討する。</p>		
生徒指導と特別活動	<p>生活全般において自己管理ができ、身近な事柄や社会の動静に関心を持ち、主体的に判断し行動できる意識の高い主権者を育てる。</p> <p>特別活動は生徒の主体的な活動の場とし、リーダーを育て、活気ある集団を創る。</p>	<p>生活面において課題のある生徒に対して継続的にサポートしていく。</p> <p>人権学習では、生徒に気づきを持たせるような内容を実施するとともに、各教科の授業においても人権問題を視野に入れて取り組む。</p> <p>生徒会・各委員会活動や文化祭・体育祭等の学校行事等の活動の場を広げ、企画・運営する力やリーダーシップを育む環境をつくる。</p>		
健康安全と環境美化	自ら健康管理ができ、落ち着いた学習環境を作ることのできる生徒を育てる。	<p>心身両面において支援の必要な個々の生徒のニーズに対応し、健やかな学校生活を送らせる。またその過程を通じて、高校卒業後に必要な能力を育成できるようにも支援していく。</p> <p>HR等を通じて、感染症対策の徹底の意識付けを行う。特に、教室の換気、手洗いの励行、マスクの着用を全教職員でより一層徹底させる。</p> <p>環境美化の意識を高めるとともに、ゴミの分別をさらに徹底する。また、意識向上のために、保健美化委員会の活動を活発にする。</p>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
メディアの活用	学校図書館の機能や役割の充実を図り、教育活動や教職員の調査・研究活動を充実させる。	<p>広報紙の発行や各種の企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。</p> <p>図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実や ICT機器の活用に努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。</p> <p>教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。</p>		
家庭・地域社会との連携と広報活動	学校の魅力を様々な機会や手段を用いて発信する。	<p>HPを用いた情報発信をスピーディにおこなうとともに、わかりやすさ・見やすさを意識した画面作りを心掛ける。</p> <p>コロナ禍においても教育活動が推進されている現状、特に生徒の主体的な活動について広報する。</p> <p>school identityの構築・共有化に努め、全校体制で広報活動を推進する。</p>		